

船舶事故調査報告書

平成25年2月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄司 邦昭

委員 根本 美奈

事故種類	衝突（防波堤）
発生日時	平成24年9月14日 17時20分ごろ
発生場所	北海道広尾町十勝港外北防波堤先端付近 十勝港外北防波堤灯台から真方位317°120m付近 （概位 北緯42°18.1′ 東経143°20.3′）
事故調査の経過	平成24年9月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{ほうえい} 保栄丸、14.89トン HK2-23506（漁船登録番号）、個人所有 14.97m (Lr) × 3.48m × 1.28m、FRP ディーゼル機関、468.0kW、昭和53年11月14日
乗組員等に関する情報	船長 男性 31歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成11年5月21日 免許証交付日 平成21年7月15日 （平成26年7月14日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	左舷船首外板及び球状船首の損壊
事故の経過	本船は、船長ほか1人が乗り組み、平成24年9月14日04時30分ごろ北海道釧路市釧路港を出港し、いか一本釣り漁の操業を行いながら、南西進して十勝港東北東方沖20海里（M）付近で操業を終えた。 船長は、自動操舵装置により目的地を十勝港外北防波堤灯台の北方0.1M付近に設定し、本船は、15時20分ごろ、針路真方位約252°、対地速力約10ノットで水揚のために十勝港へ向けて航行した。 船長は、操舵室内の椅子に腰を掛け、自動操舵により操船に当たっていたところ、出港時から連日の操業による疲労及び眠気を感じ、立ち上がったたり、窓を開けたりしながら操船を続け、前方に港口が見えた頃、もうすぐ到着するからもう少し眠気を我慢しようと思い、再び椅子に腰を掛けて操船を続けたが、いつしか居眠りに陥り、本船は、

	<p>17時20分ごろ十勝港外北防波堤（以下「本件防波堤」という。）先端付近に衝突した。</p> <p>船長は、衝突の衝撃で目を覚まし、GPSプロッターの警報音が鳴っていることに気付いた。</p> <p>本船は、損傷及び浸水状況を確認したのち、自力で防波堤から離れて十勝港へ入港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、視程 約2M</p> <p>海象：海上 平穏</p>
その他の事項	<p>本船は、自動操舵装置により目的地を設定すれば、風潮流の影響があっても自動的に針路を調整して目的地に向けて航行することができ、また、目的地付近に接近すれば、警報音が鳴るように設定されており、さらに、仮に目的地を過ぎても、目的地付近を自動で周回するようになっていた。</p> <p>船長は、ふだん、目的地付近手前で手動操舵に切り替え、警報音の設定を解除して入港していた。</p> <p>船長は、本事故当時、連日05時ごろから18時ごろまで、本船でいか一本釣り漁の操業を行っており、疲労を感じていた。</p> <p>船長は、本事故前日、19時ごろ釧路港に入港し、食事を済ませたのち、僚船の船長と本事故当日の01時～02時ごろまで、操業に関する情報交換をしてから就寝し、出港直前に起床したため、睡眠不足を感じていた。</p> <p>船長は、自力で十勝港へ入港したのち、本船の後方を同航していた僚船の船長から、本船が入港コースから外れていたため、汽笛を鳴らして注意喚起していたことを知らされた。</p> <p>船長は、本事故当時、後方の僚船の汽笛音に気付かなかった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、十勝港東方沖を同港に向けて自動操舵で南西進中、操船中の船長が居眠りに陥ったことから、本件防波堤に向けて航行し、本件防波堤先端付近に衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、連日の昼間の操業から疲れを感じており、本事故当日の02時ごろ以降に就寝し、04時30分ごろの出港直前に起床しており、睡眠不足であったこと、及び椅子に腰を掛けた姿勢で操船を続けたことから居眠りに陥ったものと考えられる。</p> <p>本船は、自動操舵装置へ設定した目的地と本件防波堤が接近していたことから、本件防波堤に衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、十勝港東方沖を同港に向けて自動操舵で南西進中、操船中の船長が居眠りに陥ったため、本件防波堤に向けて航行</p>

	し、本件防波堤先端付近に衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 船橋当直中に眠気を感じた場合は、椅子から離れて外気に当たったり、身体を動かしたりするなどして眠気を払うこと。